

特別研究委員会名称	住まいと福祉コミュニティ 特別研究委員会
新規、継続の種別	新規
委員長氏名、所属	水村容子 東洋大学・ライフデザイン学部・人間環境デザイン学科
公募の有無	あり
研究目的と 主な研究事業	<p>■研究の目的</p> <p>超高齢化社会の進行、限界集落の出現と地方の衰退、東日本大震災被災地の復興などの社会的背景を通じて、住まいとコミュニティのあり方が問われている。特に高齢化対策として、厚生労働省では「地域包括ケアシステム」が、国土交通省や内閣府では「スマートウェルネスシティ」などの構想が提示されており、その中心的な役割を果たす場として「住まい」が位置づけられている。また、高齢化対策のみならず、障害者の地域生活への移行支援や子育て支援の観点からも、住まいとコミュニティの関係を改めて考え捉え直すことは社会的要請であると考え。このような背景から、本研究会の活動目的を以下の通りに設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域コミュニティでの居住継続に関する様々な事例・施策・の情報を収集する。 2. 福祉コミュニティに関する様々な事例・施策の情報を収集する。 3. これからの社会に必要な住まいの在り方を検討する。 4. 住まいと福祉コミュニティの望ましい関係性を検討する。 <p>■研究事業</p> <p>具体的な研究事業は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員による事例や施策に関する情報収集とそのとりまとめ作業（定例の委員会として、年3回程度開催） 2. 興味深い事例の見学会を開催（年1～2回開催） 3. 収集した事例、見学会の成果をもとに公開研究会の開催（年1～2回開催）
その他特記事項	新規に立ち上げた活動であることから、初年度においては、公募委員を3名ほどとし10名程度で活動を開始したい。次年度において追加募集する予定。